

新 名 誉 会 員 の 紹 介

小笠原 暁 氏

昭和6年9月26日生れ (学術博士)

現住所 品川区上大崎



小笠原暁氏は「痛快」にオペレーションズ・リサーチを楽しまれたORの実践家の代表的存在である。氏は名古屋大学でのゲーム理論の研究に飽き足らず、大学院を中退して数学者と言語学者の協同プロジェクトチームに参加し、刀根薫氏とともにORの研究の魅力の虜になられたそうである。その後神戸商科大学に招聘され、悪戦苦闘の末、昭和38年に我が国の文系大学で初めてのオペレーションズ・リサーチ専門学科である管理科学科を設立された。当時の様子は確率過程論のComparison Theoremで有名な山田俊雄氏の自伝に生き生きと書かれている。その後国立大学の経済学部や商学部が相次いで管理科学科が生まれ、そのモデルとなった。また、学会の研究活動に新風を吹き込んだSSORの創始者の一人である。SSOR (Summer Seminar of Operations Research) は真夏に快適な避暑地で、それぞれの専門の大家から若手が学ぶ大学の垣根を越えた、いわゆる「夏の学校」である。この学校からは、ORばかりでなく多くの分野の大教授となった人々を輩出してきた。

氏の兵庫県における行政官としての活躍はORの実践家の面目躍如たるものがあり、企画部長、教育長、そして副知事と「兵庫県に小笠原あり」といわれるほど活躍され、特に氏がプロジェクト・リーダーとして創り上げた「兵庫ダイナミックス」はOR学会の実施賞を授与されている。昭和59年から芦屋大学教授として研究発表会の招致などの活動で再び学会に復帰された。傍ら、実弟のハーバード大学教授の久野氏と共に自動翻訳のベンチャーを興され、この分野に少なからぬインパクトを与えた。ところが、大学を辞して悠々自適の生活を計画されていた平成7年に、阪神淡路大震災が神戸の街とともに芦屋大学も破壊してしまったため、小笠原流の「義を見てせざるは勇無きなり」と学長になり、大学の復興ばかりか阪神間の都市環境の復興に全精力を注がれた。氏は「自己を顧みずに他の役に立つことに全力を投入する」ことがORの実践のために最も大切であることを自らの行動で示し、多くの人々を惹きつけた。

本学会は、同氏のご功績をたたえ、去る3月16日の臨時総会において、同氏に本学会名誉会員の資格を授与することを満場一致で議決しました。ここにご報告を兼ね、同氏に対して心からの感謝の意を表したいと思います。

略 歴

昭和28年3月	名古屋大学理学部数学科卒業
30年3月	名古屋大学経済学部経済学科卒業
33年12月	同 大学院経済研究科中退
35年4月	神戸商科大学 講師
37年10月	同 助教授
43年5月	同 教授
47年4月	兵庫県 企画部長
50年4月	同 教育長
53年4月	同 副知事
59年6月	芦屋大学 教授
平成7年4月	芦屋大学 学長
2年6月	ロゴヴィスタ(株) 社長
5年2月	同 会長
10年3月	芦屋大学退職 (名誉教授)
10年6月	ロゴヴィスタ(株) 社長
11年6月	同 会長
13年12月	同 取締役

OR学会関係

理事 昭和45・46年度、評議員 昭和45～52年度、
昭和59年度～平成元年度、副会長 昭和60・61年度、
フェロー昭和63年度、会長 平成14・15年度